

目 次

図書と私	1
岐阜大学の古典籍(6)	
一本の袋が教えてくれること	4
寄贈図書一覧(2021 年 7 月～12 月)	5

“グローバル” ってなんだろう?	6
お知らせ	7

～図書と私～



西尾 洋

図書館報への寄稿依頼を受け、自分と図書との関わりを書き出してみた。時期や場所によっても様々な思い出を、5つの切り口で振り返ろうと思う。

■ 図書館

小学生の頃に足を運んだのは、近所の公民館に備えられた簡易な図書室、自転車で20分くらいのところにある地域の市立図書館、そして3階建てのスーパーマーケットの一角に設置された子供向けの図書室（これは、しばらくのちに閉室してしまった）

だった。自然科学の図鑑シリーズや、野球におけるボールの投げ方などを解説した本を好んで読んだ。

中学生になると市立図書館で音楽のCDをたくさん借りるようになった。1人あたり5枚まで借りられた。我が家は6人家族だったので全員のカードを集め、最大30枚借りた。開架で空のケースを選び、カウンターにもっていくと司書さんが奥から中身の入ったケースをもってきてくれる。30枚もあるので、私の後ろに並んだ他の利用者に申し訳ない気持ちで司書さんを待った。（この原稿を確認した図

書館職員には「図書は自分のカードで借りて下さいね」と苦笑された。）

高校は大学の附属であったが、当時高校生は大学の図書館が使えなかった。どうしても読みたい本があるときは、高校の事務室の方に頼んでこっそりと借りてきてもらったりもした。よく覚えているのはフランスの作曲家が自らの作曲技法について解説した本を訳したもので、書店には売っていない絶版本だった。まさに貪るように読んだのを覚えている。

その大学に進んで自由に図書館が使えるようになった。上野公園の隣、上野動物園の裏という立地条件からか、夏場は藪蚊がよく出た。図書館のカウンターでは蚊取り線香貸し出しというのがあり、利用カードと引き換えに蚊取り線香とそれを燃やす皿を借りた。しばらくして冷房が完備するとそのサービスはなくなった。

やがてドイツの大学に留学した。大学は、ヨーロッパの古い都市によくある、文字通り隣り合って建つ商人屋敷をまとめて取得し、中の壁を抜いてつなげた建物で、足を踏み入れるとまるで迷路だった。そんな建物の屋根裏にあたるのが図書館だった。太い梁に頭がぶつかりそうになりながら書棚を巡った。貸し出しの冊数は無制限、半期が終わるまで借りられた。

このように振り返ると、その時その時で借りた本の中身だけではなく、手触り、デザイン、また図書館の建物風景、書棚の位置、司書さんの顔などが付随して思い出される。

■実物は厄介だからいい

クラシック音楽の作曲を一応の専門ということにしているので、主に音楽関係の書物（楽譜、事典、専門書）とCDが多い。留学から帰るとき、現地で蒐集した書物がある程度の量だったので、馴染みだった地元のワイン屋さんの伝手で業者を紹介してもらい、ハンブルクから出る貨物船のコンテナ一角を確保してもらった。大井埠頭に船が着くころに日本

の海運会社から連絡があり、トラックを借りて荷物を引き取り、税関に運んで検査を受け、家に運んだ。1 トンはあったと思う。

最近はこの資料群がさらに膨大化することへの不安が徐々に増してきたのと、音楽がインターネットで簡単に聴けるようになってきたことから、物品を新たに買う速度が緩やかになった。しかし、インターネットで手軽に聴く音楽には解説書もなければジャケット写真もなく、買いに行った店の驚くべき知識を備えた玄人店員たちも、商品紹介のマニアックな文章も、そして高い買い物をして興奮しながら帰ってきたあの体験も、ついていない。

インターネットで、ワンクリックで聴くことのできる音楽は、なかなか私の記憶に定着しない。簡単に、すぐに手に入るものは、すぐに記憶から去ってしまうのだろうか、あるいは単に私が年を重ねたから記憶をするのが苦手になっただけなのか。

時間ということでは、注文した本がなかなか届かないというのはドイツではよくあることだった。去年、私が7年ほど前に注文したらいい本がようやくドイツから送られてきた。これが私の最長記録（その次が3年越しのもの）。中には10年待っているという先生もいるし、もっと時間がかかっている本もきっとあるに違いない。出版社としては発刊予定が立って客から注文を受けるのだが、おそらく著者のせいで肝心の出版になかなか漕ぎつけられず、じりじりと時間が過ぎていったのだろう。狭い専門業界で、なおかつ専門書しか出さない出版社だから、読者もみな気長に待っている。特段急いで読むような本でもなく、困るほどのことでもないが、できれば生きているうちに送ってきてほしい。

■絵本

新刊の書店に行くとたいい絵本売り場を覗く。絵本はれっきとした大人の読み物で、この年になっても心が躍る。文字だけの本と根本的に違うのは、ページ構成が内容と連動しているところである。作

曲家としては、一定の時間をどのように構成するかということに常に興味がある。どのように始まり、どこでどう転換し、どのように終わるのか。それが作品の形であり内容でもある。絵本はたいてい16または32ページで作られていて、そのどこにクライマックスがやってくるのかの工夫がある。また、ページを繰るという作業が物語の展開と連動しているのもおもしろい。製本された紙芝居のようでもある。構成で最も驚いたのは『くまとやまねこ』という絵本。その始まり方が衝撃的で忘れられない。こんな絵本の始まり方、あっていいのだろうか。誰がこれを思いつくだろうか。

■楽譜

近年はインターネットで作曲家の自筆譜が公開されていたり、著作権や版権の切れたものが自由に使えるようになっていたり、タブレット端末を使って練習したり本番に臨む音楽家もいる。紙媒体を手にすることは減ってきたものの、やはり私は紙派である。タブレットやパソコンが寿命や事故で壊れたら、ファイルをインターネット上で公開しなくなったら、電子ファイルは開けないし、もう手に入らない。紙が最も長く確実に残る。紙は燃える危険があるが、パソコンやハードディスクも燃えるときは燃える。

楽譜は、今でこそ楽譜作成ソフトがあり、誰でもかなり高度な水準で楽譜が作れるようになったが、十数年前までは職人が銅板やハンコで一つ一つ手作業で作っていた。私はパソコンによる楽譜制作（浄書という）の仕事をしていたことがあり、今でも出版に関与していると思うことがある。それは、パソコンでどれだけ工夫しても、かつての手作業の楽譜の方が見た目は圧倒的に美しいということである。音符のレイアウト、線の太さ、1ページあたりの小節数の割合、全体のバランスは、古いもののほうが断然良い。出版社ごと、国ごとの風合いの違いもあって、見ているだけでも楽しい。良いレイアウトの楽

譜は、見ただけで音楽が浮き立ってきて、自然と体の中に入る。しかし時代の趨勢で職人芸を受け継ぐ人はいなくなり、今はほとんど途絶えている。

■本を読む時期、読まない時期

私の場合、本を集中的に読む時期とほとんど読まなくなる時期が数か月単位で交代する。読む時期は、以前買って置いてまだ読んでないものを紐解き、読まない時期には今後読みそうなものを買う。この周期が何と連動しているのかはよくわからない。

図書館に出向くのも周期があって、出向き始めると立て続けだし、読みたいものを一通り読むと休眠期間に入る。教育学部のはずれ、保育園の隣に立つ音楽棟が私の勤務先で、そこから大学図書館までは学内感覚では遠い。とはいえ車社会の岐阜では歩くこともほとんどなく、この程度の距離が遠出と感じるようになったのだと改めて思う。散歩気分で音楽棟を出て、図書館のまわりのメタセコイアやヌマスギを見るのが楽しい。図書館に通わなかった時期を経て久々に足を運ぶと、青々としていたこれらの木々が落葉していて季節の移り変わりを知る。

図書との関わりは人それぞれだろう。時期や場所が変われば、関わる深さも密度も変わっていく。一度、自分と図書との繋がりを思い返してみるのも良いのではないか。

（にしお よう : 教育学部 音楽教育講座 准教授）



岐阜大学の古典籍（6）本の袋が教えてくれること

教育学部国語教育講座准教授 小川 陽子

今回は、岐阜県養老郡養老町の美泉をめぐる江戸時代の論争において飛騨高山の国学者・田中大秀が自説をまとめた『養老美泉弁註』を取り上げました。岐阜大学の所蔵する『養老美泉弁註』（整理番号 090-57-40035）は出版された際の袋が本とともに残されているのですが、この袋は管見のかぎりでは『養老美泉弁註』唯一の残存例で、たいへん貴重なものです。今回はこの袋から得られる情報を見ていきます。



【写真1】

【写真1 袋全体】

『養老美泉弁註』は、従来、文化12（1815）年11月に出版されたものと考えられてきました。それは、この本の序文に、「文化乙亥仲冬」と記されているためです。「文化乙亥」とは、文化年間の乙亥の年すなわち文化12年、「仲冬」とは、冬3ヶ月の真ん中すなわち11月を意味します。本から得られる情報の範囲では、たしかに文化12年11月に成ったものと判断するほかありません。ところが、岐阜大学本の袋には「文化丙子季秋発行」と明記されているのです。「文化丙子」は文化年間の丙子の年すなわち文化13年、「季秋」は秋3ヶ月の最後すなわち9月を指します。これにより、『養老美泉弁註』は文化13年9月に出版されたことが明らかとなったのです。



【写真2】

さて、連載第1,2回では書物の所蔵者によって捺された印に触れましたが、岐阜大学本『養老美泉弁註』の袋には、出版に際して捺された印も2つあります。まずひとつは、左下に捺された「永楽書屋」という朱印です。【写真2】これは、印のすぐ上に「製本所 尾張名古屋 東壁堂」と記載のある東壁堂すなわちこの本を出版した尾張名古屋の書肆・永楽屋東四郎の印と考えられます。

もうひとつは、右上の「飛騨」と「養（老）」の字にかかる位置に捺された朱印です。【写真3】丸の中に文字ではなく絵が描かれていますが、何の絵かおわかりでしょうか。絵の上部に小さな白い丸7つとそれを結ぶ線があり、その下には何やら人間のようものが描かれています。これは、魁星印と呼ばれ、この岐阜大学本のように本の袋の右肩などに捺されるものです。小さな白い丸とそれを結ぶ線は七つ星すなわち北斗七星、その下にいるのは、実は人間ではなく鬼で、さらにその下には竜が描かれています。鬼と北斗七星の間には、鬼が蹴り上げた升も見えます。このように、竜に乗った鬼の上部に北斗七星を描く魁星



【写真3】

印は、もともとは中国の出版物において用いられていたのが日本に入ってきたものと言われています。魁星とは、そもそも北斗七星の第一星をいい、文星・文昌星とも呼ばれます。文章を司る星・神とされたことから、書物に魁星印が捺されるようになったと考えられています。魁星印が鬼と升を描くのは、「魁」の字が「鬼」と「斗」（＝ます）から成っているからだそうです。古典籍は、書かれた内容はもちろんのこと、袋や印といった付随するものによっても、さまざまな情報や文化を現代の私たちに教えてくれるのです。

寄贈図書一覧（2021 年 7 月～12 月）

2021 年 7 月～12 月に図書館にご寄贈いただいた図書の中で、本学教職員が著作・編集・刊行等に関係した図書を掲載します。ご寄贈いただき、ありがとうございました。

※紹介文は著者または編者本人による

●牧 秀樹（地域科学部）

- ・ **Essays on case / 牧秀樹著 開拓社, 2021.9【図本館洋書 802.2||Mak】**

本書は、アジア諸言語の属格主語の分布を調査し、その背後にある原理の解明を試みています。調査対象：中国語（現代語・古語）、日本語（東京方言・長崎方言）、韓国語、延辺語、モンゴル語、セラヤリーズ語、ウルドゥ語。

- ・ **動詞（英語 monogrammar, vol. 9）
/ お茶の水ゼミナール英語科著, 牧秀樹監修, 開拓社, 2021.12【図本館 3 階 835||Oty】**

本英文法シリーズ⑨動詞は、動詞の諸特性を明示的に提示し、「英語を作る」力を伸ばすよう設計された参考書・問題集です。文法理論の観点から文法を解説し、母語話者のように英語を作る練習をします。

●小川 陽子（教育学部）

- ・ 『源氏物語』享受史の研究：付『山路の露』『雲隠六帖』校本
/ 小川陽子著 笠間書院, 2009.2【図本館 3 階 913.36||Oga】
- ・ 松浦宮物語 雲隠六帖
/ 室城秀之校訂・訳注 小川陽子校訂・訳注 笠間書院, 2021.8【図本館 3 階 913.41||Tyu】

『源氏物語』は長編ですが、光源氏の死は具体的に描かれず、最終巻もさらなる続きが気になる閉じられ方です。このため多くの伝説や二次創作が生まれました。その筆頭格である『雲隠六帖』の、初めての現代語訳です。

●杉山 真魚（教育学部）

- ・ **カルチュラル・グリーン 2 / 石倉和佳, 杉山真魚編 学術研究出版, 2021.3【図本館 3 階 389||Kar】**

人間と自然との関わりについて考えるという共通認識のもと、太平洋の航海、イギリスのインテリア、ベルギーの装飾芸術、スリランカの住まい、フィリピンの言語、という世界各地の事例が論じられている研究会誌です。

●山田 敏弘（教育学部）

- ・ **日本語の乱れか変化か：これまでの日本語、これからの日本語
/ 金澤裕之, 川端元子, 森篤嗣編, 山田敏弘 他 著 ひつじ書房, 2021.2【図本館 3 階 810.4||Nih】**

国語教育で追い求める「正しい日本語」から実際の日本語はさまざまに乖離する。§2 では「花に水をあげる」や「次に移らせていただきます」など、規範からの乖離の方向性とその原因を汎言語的に論じています。

- ・ **方言の教育と継承(実践方言学講座；第2巻)
/ 大野真男, 杉本妙子編, 山田敏弘 他 著 くろしお出版, 2020.12【図本館 3 階 818||Zis】**

歴史遺産であり多様性の宝庫である方言を次世代に伝えていく具体的方法と課題を紹介する 1 冊。第 10 章「方言教科書のつくり方」では、岐阜方言の教科書も紹介しています。ぜひご一読ください。

～ “グローバル” ってなんだろう?～

私たちの生活と切っても切れない関係となってしまった新型コロナウイルス。身近な家族や友人との交流さえままならない中、外国との関わりはより薄くなっているようにも感じます。最近、岐阜大学図書館には、グローバル関連の図書が多数配架されました。その中から数冊、ご紹介させていただきます。今は行けないけれど、今は来てもらえないけれど。様々な人と再び交流できる日が来た時に、その一助になれば幸いです。



(1) 『おいしいダイバーシティ：美食ニッポンを開国せよ』

/ 横山真也著：（ころから 2021.1）【図本館 3 階 588.09 || Yok】

新型コロナウイルスを経験した世界。その波が去った後、日本は、世界はどうなっているのでしょうか。『食べられるもの』、『食べられないもの』、それを分けているものとは??? 将来、日本が世界中の人にとって訪れたい国であるために、知っておくべき現在の姿。私たちにも身近で切実な、“食”という側面に焦点を当てて綴った著書です。



(2) 『今そこにある多言語なニッポン』 / 柿原武史, 上村圭介, 長谷川由起子編 著

（くろしお出版 2020.6）【図本館 3 階 802.1 || Ima】

世界の共通語と言えば英語??? 日本で暮らす他国出身者同士が話しているのは何語??? 「日本＝日本人が日本語を話す国じゃない!」という表紙の紹介文のとおり、英語以外の外国語との関わりから、現在の日本社会を描き出した著書です。

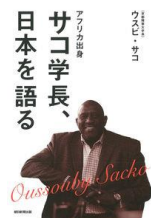


(3) 『日本語とにらめっこ：見えないぼくの学習奮闘記』

/ モハメド・オマル・アブデイン 著 河路由佳 聞き手・構成（白水社 2021.4）

【図本館留学生コーナー 378.1 || Abd】

目の見えない外国人が、一から日本語を学ぶ…自分の立場に置き換えれば、思わず気が遠くなってしまうような状況で、どのようにして彼は日本語の著書を出版するまでに至ったのか。その学習過程と、日本語・文字・図書との接し方は、当たり前のように母語の視覚資料を利用している私たちの現在の生活を、振り返るきっかけになると思います。



(4) 『アフリカ出身サコ学長、日本を語る』

/ ウスビ・サコ著（朝日新聞出版 2020.7）【図本館留学生コーナー 289.1 || Sac】

マリで生まれ育ち、ヨーロッパに留学するつもりが何故か中国へ。その途中で出かけた日本と日本人に興味をわいて今度は日本に留学。京都大学の学生を経て京都精華大学の学長になったサコ氏の視点から分析される日本の社会や学生の姿は、驚きとともに新しい観点を与えてくれます。

自分とは違う言語・文化・肌の色。知らないことは、なんとなく不安で避けたいこと。自分の知っている世界だけで生きるのも一つの道ですが、知ろうとする気持ち一つで変わることがあります。備え無しでいきなり生身の人間と接する前に、図書を手に取ることで覗ける世界があります。様々な図書と共に、来館をお待ちしています。

（資料サービス係 村上詩織）

お知らせ

岐阜大学・名古屋大学合同図書展示企画 開催中!!!

岐阜大学図書館では、定期的にテーマを変えながら来館する皆さんに向けてお勧めの図書の紹介展示を行っています。（【写真1】）

2022年4月1日からは、テーマ展示初の「岐阜大学・名古屋大学合同企画展示」として開催しております。各大学の学生の皆さま方から広く「新入生・初学者のためのお役立ち本」を募集して紹介する企画です。推薦図書の募集も引き続き、5月9日まで受付中。奮ってご応募ください！



【写真1】



<募集期間>

2022年1月24日(月)～5月9日(月)

応募フォームはこちら↓

<https://forms.office.com/r/hsqKs2JMpy>



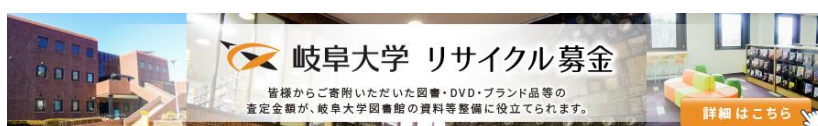
<注意事項>

- ・展示は所蔵している資料(電子書籍を含む)に限ります。
- ・応募多数の場合はすべてをご紹介できないことがあります。
- ・コメント他、入力した情報は展示等に利用する場合があります。

「岐阜大学 古本募金」は「岐阜大学 リサイクル募金」に名称変更しました

皆様が読み終えた本・DVD等をご提供(募金)いただくことにより、その査定換金額を図書館資料の整備に使わせていただく「岐阜大学 古本募金」を2022年3月まで実施してきました。皆様のご厚意に深謝申し上げます。

2022年4月からは、名称を変更して「岐阜大学 リサイクル募金」となりました。古本に限らず幅広い物品がご提供(募金)の対象となっております。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



【詳細ページ】

お知らせ

CAS SciFinder は CAS SciFinder-n になりました

化学分野の文献・物質・反応情報などを検索できるデータベース CAS SciFinder は、2022 年 3 月末で利用できなくなりました。

4 月からは、後継の CAS SciFinder-n（サイファインダー・エヌ）をご利用ください。

<詳細情報> https://www.lib.gifu-u.ac.jp/academic/online_search.html#sciFinder

ライブラリ・メイカースペースについて

学習・研究・創作活動を支援する、ライブラリ・メイカースペースが新設されました。様々な機器を借りられますが、今回は、下記の *イベント開催支援セット* についてご紹介します。

イベント開催支援セット



(ワイヤレスプレゼンツール・マイクなど)

こちらは、お手持ちの PC に送信機を接続することにより、複数の PC の画面をワンタッチ切替でディスプレイに表示できます。マイクも複数あるので、発表者同士が適切な距離を取りつつイベントを開催することが可能になります。皆様のご利用をお待ちしております。

<詳細情報> <https://www.lib.gifu-u.ac.jp/guide/gulms.html#lmsL07>

※図書館サービスの内容は感染症の流行等により変更となる可能性があります。最新の情報を図書館ホームページにてご確認ください。

【タイトル「寸胴」について】

図書館エントランスホールにある陶壁画「寸胴譜」（作：九谷興子 1911-1998）は、陶器の原型「寸胴」を学生や若い研究者になぞらえ、社会への飛躍をイメージした作品で、図書館報のタイトルはそこから採っています。

